

# 日比NGO合同シンポジウム報告

47号でお伝えした日比 NGO ネットワークのシンポジウムが2006年11月24、25日の2日間にわたってマニラで開催され、HANDS からは山崎・相田・九島が参加しました。場所はタギッグ市のショッピングモール「マーケット！マーケット！」内のイベントホール。半分は会議場に、半分は約40のNGOや市民団体の紹介や物販ブースにあててもまだ余る広い会場が、モールを運営する会社から無料で提供されました。

参加者は NGO 関係者、政府関係者、財団、マスコミ、大学等からなんと約 150 名！さまざまなフィリピンの NGO に所属するスタッフたちの横のつながり=ネットワーク力を、肌で知ることができました。

シンポジウムの目的は4つ。

- ① 日比 NGO の現状と貧困削減の取り組み状況
- ② 比における ODA の現状と NGO 活動における ODA の取り組み状況
- ③ 貧困削減に向けた日比 NGO の共通課題を見出す
- ④ 貧困削減に向けた共通課題に対する、実現可能な協働の形と活動を見出し、日比両政府へ支援を働きかける

2日間のプログラムもこの目的を念頭に置いて組み立てられていました。

24日の内容は、フィリピンの NGO について、フィリピンに関わる日本の NGO の分析報告、公開討論、ワークショップ、再生可能なエネルギーにおける協働に関するプレゼンテーションが行われました。特にワークショップは4つのグループに分かれ、「貧困の要因は何か」「NGO が出来ることは何か」「日比 NGO が協働する意味」をテーマに率直に話し合えたことは貴重な経験となりました。

25日の内容は、南山大学の吉川洋子先生による日比関係史、協働事例紹介とその分析、新しい協働に向けた提案、公開討論、各セクターからの応答、でした。

事例紹介では、HANDSの活動内容についても発表され、山崎とミンダナオから駆けつけた PFP スタッフのノさんが補足を行いました。

また、フィリピンのスタッフを何人もかかえる大きな NGO は ODA への関心が高く、在比日本大使館の杉山公使(経済担当)と石田専門調査員(草の根無償担当)からの説明は、熱い期待をもって迎えられ、質疑応答がなされました。

貧困削減のために働いたたくさんの NGO スタッフに出会えた2日間。今後は日本でのシンポジウム開催に向け、このネットワークを発展させていきます。

The Daily MANILA SHIMBUN 2006年(平成)18年11月26日

## 草の根援助 改善を提言

### 官民連携の強化目指す 日比 NGO シンポジウム

比日両国の NGO が政府機関と、民間企業とが連携して、草の根援助の改善を提言するシンポジウムが、マニラで開かれた。このシンポジウムは、日比両国の NGO が政府機関と、民間企業とが連携して、草の根援助の改善を提言する。このシンポジウムは、日比両国の NGO が政府機関と、民間企業とが連携して、草の根援助の改善を提言する。



比日 NGO シンポジウムでのワークショップ会場  
= 首都圏タギッグ市内で25日午後4時ごろ写真

レガール  
野登

現地邦字紙「まにら新聞」1面に掲載されました  
(2006年11月26日)

## 医療報告

ゼネラルサントス市にある CMIP クリニックにて治療を受けた患者は、2006年は月平均30名でした。マラリア患者は出ていませんが、ときどきデング熱にかかる住民がいます。ジョジョはクリニックで待っているだけでなく、積極的に山岳部の村に出かけことにしました。特に11月に巡回診療を行ったある村では、疥癬患者が130名もおり、驚きました。

心臓弁膜症の奨学生ヘルメニアの手術日程はまだ確定していません。事前に本人が心理セミナーを受講しなければいけないそうです。他の書類は揃ったそうなので、良い報告を早く聞きたいと思います。



2006年9月、マニラ心臓病センターにて診察を受ける  
(同行のジョジョが撮影)